

# 第3次滝川市子どもの読書活動推進計画（案）

2024（令和6）年度～2028（令和10）年度



2024年3月

滝川市教育委員会

# 目 次

## 第1章 子どもの読書活動推進計画とは

1. 子どもの読書活動の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 子どもの読書活動推進計画の趣旨・・・・・・・・・・・・ 2
3. 第2次滝川市子どもの読書活動推進計画について・・・・ 3

## 第2章 第2次計画の成果と課題

1. 対象別の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2. 第2次計画の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

## 第3章 計画の基本的な考え方

1. 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
2. 目 標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
3. 対 象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
4. 期 間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
5. 成果の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
6. 策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

## 第4章 子どもの読書活動の推進のための方策

1. 0歳前・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
2. 乳幼児・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
3. 小学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
4. 中学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
5. 高校生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
6. 多様な支援を必要とする子ども・・・・・・・・・・・・22
7. 子どもと関わる大人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

## 資料編

1. 子どもの読書活動の推進に関する法律・・・・・・・・・・ 資料 1
2. 文部科学省「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(概要)  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料 2
3. 北海道子どもの読書活動推進計画 [第五次計画] (概要)・・・・ 資料 3
4. 滝川市総合計画 (抜粋)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料 4
5. 滝川市教育推進計画 (抜粋)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料 5
6. 第2次滝川市子どもの読書活動推進計画 (2019年度～2023年度)  
対象別成果検証報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 資料 6
7. 「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査 調査報告書」(概要)・・・・ 資料 7
8. 「読書活動に関するアンケート」集計結果・・・・・・・・・・・・ 資料 8
9. 滝川市教育委員及び滝川市社会教育委員名簿・・・・・・・・・・・・ 資料 9

# 第1章 子どもの読書活動推進計画とは

## 1. 子どもの読書活動の意義

読書活動は、子どもたちが人生をより豊かにし、生きる力を身につけていくうえで欠かせないものです。子どもたちは、読書を通じて言葉を学び、様々な知識を身につけるとともに、未知の世界に触れて豊かな想像力を育むことで、変化し続ける社会の中で自ら学び、考え、課題を解決したり判断するための力を得ることができます。学力調査の分析報告<sup>注1</sup>からも、読書好きな児童・生徒ほど教科の学力が高く、科目、学力層、領域、設問形式によらず、この傾向が確認されており、読書と学力は密接に関係していることがわかります。併せて、OECD（経済協力開発機構）が行っている「生徒の学習到達度調査」<sup>注2</sup>（2019年公表）によると、日本では本をよく読む生徒の読解力の得点が高い傾向にあり、読書をすることで複数の文書や資料から情報を読み取って根拠を明確にし、自分の考えを書くことや、テキストや資料自体の質や信頼性を評価する力が身に着くことがわかっています。また、本の中の様々な世界観を感じ、登場人物や著者に共感・反感したり、自分に置き換えて考えることで感性が磨かれ、他人を思いやる心や広い視野を得ることができ、生きる力を育むことができます。このように、読書習慣の確立は子どもの成長や発達に大きな影響を与えることから、すべての子どもたちがそれぞれの個性や発達段階に応じて、いつでもどこでも読書活動ができる環境の整備が必要です。

読書習慣の定着のための第一段階は、家庭での読み聞かせです。親子が絵本を通して触れ合うことで、子どもは親のぬくもりを感じて信頼感を抱き、親子の絆がより深まっていきます。家庭で読み聞かせをしている期間が長い子どもの方が、短い子どもよりも1か月の間に読んだ本の冊数が多くなる傾向があることも報告されています<sup>注3</sup>。また、読書は、子どもの言語発達を中核とした認知・思考活動を育て、それが子ども自身による読書活動につながることで発達心理学<sup>注4</sup>の立場から報告されています。図書館や学校図書館をはじめとした、子

---

注1 / 「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究 ―読書活動と学力・学習状況の関係に関する調査研究分析報告書―」（静岡大学・文部科学省委託事業）

注2 / 15歳を対象に、3年ごとに読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野で実施。日本は高校1年相当学年が対象。「読解力」の定義は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと」としている。

注3 / 「親と子の読書活動等に関する調査」（財団法人日本経済研究所・文部科学省委託事業）

注4 / 「子どもの発達と『読み聞かせ』の効用」（白百合女子大学、田島信元教授）

どもと本を結ぶ役割を担う施設を中心に、あらゆる人が、子どもの健やかな成長のために、家庭での読み聞かせの支援や読書環境の整備、発達段階ごとの情報提供を行っていくことが非常に重要です。

以上のことから、滝川市では、読書活動の普及・啓発・実践に取り組む指針として本計画を策定し、まち全体で滝川市の未来を拓く「たきかわっ子」の読書を推進します。

## 2. 子どもの読書活動推進計画の趣旨

2001年に、子どもの読書活動の推進に関する基本理念を定め、国や地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの健やかな成長のため、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として、「子どもの読書活動の推進に関する法律」<sup>注5</sup>が成立しました。これにより、都道府県や市町村においても、「子どもの読書活動推進計画」の策定が努力義務とされたことを受け、国では2002年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」<sup>注6</sup>、北海道では2003年に「北海道子どもの読書活動推進計画」<sup>注7</sup>が策定され、2023年3月にそれぞれ第5次計画が策定されています。

滝川市も、この法律に基づき、すべての子どもが豊かな読書体験を通して健やかに成長していくために、2014年3月に「滝川市子どもの読書活動推進計画」（2014年度～2018年度）、2019年3月に第2次「滝川市子どもの読書活動推進計画」（2019年度～2023年度）を策定しました。



---

注5／「子どもの読書活動の推進に関する法律」（資料1）

注6／文部科学省「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」概要（資料2）

注7／北海道子どもの読書活動推進計画〔第五次計画〕概要（資料3）

### 3. 滝川市子どもの読書活動推進計画について

滝川市では、5か年ごとに子どもの読書活動に関する重点目標を定め、「滝川市総合計画」<sup>注8</sup>及び「滝川市教育推進計画」<sup>注9</sup>との整合性を確保しつつ、「滝川市子どもの読書活動推進計画」を策定しています。第1次計画では、読書活動を通じて子どもたちに読書習慣を身に付けてもらうことに重点をおき、「ブックスタート事業」<sup>注10</sup>をはじめとして、家庭での読み聞かせの啓発、図書館や学校、児童館でのおはなし会などを実施しました。続く第2次計画では、2018年度に実施された「全国学力・学習状況調査」<sup>注11</sup>での滝川市の小・中学生の「読み解く力」が伸び悩んでいるという結果を受け、「調べる」「研究する」場としての図書館利用の啓発と、学ぶ力を育む活動に重点をおき、「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」や「たきかわ DE 調べる学習体験講座」などの調べ学習に関する取組の充実や、学校での調べ学習のための図書館利用の定着を図りました<sup>注12</sup>。

この第2次計画の計画期間が2019年度から2023年度までの5年間であることから、次の5か年（2024年度～2028年度）を計画期間とする「第3次滝川市子どもの読書活動推進計画」を策定します。



注8／「滝川市総合計画」（2023年度～2032年度）抜粋（資料4）

注9／「滝川市教育推進計画」（2023年度～2032年度）抜粋（資料5）

注10／生まれてきた赤ちゃんへ絵本を贈り、その絵本を通じて、親子の心のふれあうひとときを持つきっかけをつくる取り組み。

注11／文部科学省が実施する全国的な学力調査。義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図ることを目的としている。

注12／第2次計画の成果と課題（本書 P.4～5） 及び 第2次滝川市子どもの読書活動推進計画（2019年度～2023年度）対象別成果検証報告書（本書 資料6）

## 第2章 第2次計画の成果と課題

### 1. 対象別の成果と課題

#### 0歳前

##### (1) 成果

妊娠や出産に関するおすすめの本を紹介することで、本を活用した子育てや、保護者が図書館に足を運ぶきっかけづくりを行いました。また、母子手帳に添付する図書館の利用案内をリニューアルし、0歳前から読み聞かせを行うことの大切さについて記載し、家庭での読書活動の啓発を図りました。

##### (2) 課題

第1次計画にて課題となっていたマタニティクラスの参加者増加への取り組み強化について、新型コロナウイルス感染症の影響により妊婦対象講座での図書館による講話が中止となり、直接的な保護者への子どもの読書活動について啓発を行うことができませんでした。子どもが生まれる前からお母さんが読み聞かせをする習慣づくりをすることは、その後の家庭での子どもの読書に大きく影響するため、引き続き様々な場面で生まれる前の子どもの保護者を対象とした子どもの読書活動について啓発を図ります。

#### 乳幼児

##### (1) 成果

図書館と絵本作家、出版社が、子どもたちのためにコロナ禍でもできることを共に模索し、従来の絵本作家講演会やワークショップに代わり、原画展を開催したことで、子どもたちが生のアートに触れられる機会を提供することができました。また、「どこでもドクショ。」事業や貸出文庫により、保育所や子どもと大人が集まる施設で子どもたちが本に触れられる環境の充実を図りました。参加者が減少傾向にあった「絵本のおはなし会『たまたまばこ』」等の実施方法の見直しも数回にわたって行い、令和5年度には参加者が増加しました。



## (2) 課題

図書館と他の機関が連携して実施していた出張おはなし会など、継続して行っていた事業の中には繋がりが途切れてしまったものもあるため、改めて連携事業のPRを行い、施設や団体による図書館利用の促進を図る必要があります。

# 小学生

## (1) 成果

「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」を意識した自由研究の作品の増加や、教職員が授業の補助教材として積極的に本を活用していることから、読書によって子どもたちの興味・関心を高めることができたのではないかと考えられます。併せて、図書館学級文庫は各校で有効活用されており、人気のある本は学校図書館でも蔵書とするなど、選書の参考にもなっています。蔵書の充実については、図書室に本のリクエストボックスを設置したり、子どもたちから直接聞き取るなど、子どもたちの要望を蔵書に反映させる工夫が行われている学校もあります。また、学校図書館の運営や環境整備について、学校と図書館が連携して、子どもたちが利用しやすい環境づくりを行うことができました。第1次計画で課題となった蔵書のデータベース化も推進することができました。

## (2) 課題

読書アルバム（通帳）の100冊以上達成者数が年々減少しています。1冊の本をじっくりと読みこむことも大切な読書体験ですが、様々な本を読むことで、子どもたちの知識が広がり、読解力が向上するとともに、想像力が育まれるため、図書館と学校が協力して読書通帳（アルバム）活用のPRを行うなど、子どもたちの読書量が増えるような取り組みを実施する必要があります。また、2021年度に小学3年生と小学6年生を対象に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」<sup>注13</sup>では、「読みたい本がない」「本を読むのが好きではない」という理由で読書をしない子どもの割合が高いことがわかりました。子どもたちが読みたいと思う本の選書の精度を高めるとともに、おすすめの本の効果的なPRを行う必要があります。

---

注13／「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査 調査報告書」（2021年度）（本書 資料7）

## 中学生

### (1) 成果

第1次計画で課題となったヤングアダルトコーナーの充実について、書架を増設し、開架図書を増やしたほか、子どもたちの投票によるライトノベルやマンガの蔵書化を行いました。投票で選ばれた本は利用が多く、一部分野での子どもたちの声を取り入れた蔵書づくりが有効であることがわかりました。また、学校では、図書館学級文庫の本が朝読書に役立っているほか、POP作成講座なども活用されています。壁新聞の取材や職業調べでも図書館が利用されており、図書館について知り、興味を持つことで、身近に感じてもらうことができていると考えられます。

### (2) 課題

授業での図書館の本の利用が少ない傾向にあります。教職員がより図書館を活用しやすいよう、調べ学習向け図書の紹介や展示など、より具体的なイメージを持ってもらえるような工夫を行う必要があります。また、2021年度に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」では、本を読まない子どもの割合が他の世代より少なかったものの、電子メディアの使用を理由に本を読まない子どもの割合が多く、インターネットを利用した読書推進事業について検討する必要があります。

## 高校生

### (1) 成果

高文連空知支部の図書館研究大会での図書館からの講師派遣や、滝川工業高校の開校100周年を記念した、関連資料や学生の製作物の展示など、読書以外での図書館利用について教職員や学生たちに知ってもらうことができました。また、第1次計画で課題となった図書館に足を運んでもらうための取り組みとして、図書館の学生に図書館のイベントや企画展示などに参加してもらったことで、学生やその関係者も多く来館し、本を手取るきっかけになりました。

### (2) 課題

高校生と本を結び付ける図書館の直接的な取組を十分に実施することができませんでした。学校で過ごす時間が長い高校生向けのサービスでは、高校と図書館の連携が必要不可欠です。図書館や本の活用方法を知ってもらい、実際に利用してもらえるような工夫が必要です。また、2021年度に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」では、高校生の4人に1人が本を読んでいないことがわかりました。読書が好きと回答した子どもでも、1日の読書時間が1時間未満の割合が高く、朝読書などの学校での読書時間の確保や、短時間で読める作品を紹介することで読書率が上がる可能性があります。



## 特別な支援を必要とする子ども<sup>注 14</sup>

### (1) 成果

図書館の出張おはなし会や貸出文庫などの利用を望む声が多く、障がいをもった子どもや通学が困難な子どもなどの読書環境を充実させることができました。また、子どもたちとの交流によるニーズ把握を行い、おすすめの本のチラシの作成・配布や、大活字本や点字の本、手話の本の収集など、読書バリアフリーの推進に向けた取り組みを行うことができました。

### (2) 課題

点字併記図書や大活字本など、障がいを持つ子ども向けの本の出版数が少なく、図書館の資料として十分に収集することができませんでした。新しく出版された本だけでなく、必要に応じて過去の出版物の情報も収集し、積極的に資料収集を行う必要があります。読書バリアフリーへの関心が高まっている今、滝川市の状況に合わせた取り組みについて、連携して取り組むことが必要です。

## 子どもをとりまく大人<sup>注 15</sup>

### (1) 成果

図書館の読み聞かせボランティアの研修会を開催し、第1次計画で課題となっていた読書活動を支える人材の育成を行ったほか、おはなし会などの見直しを行い、活動内容の充実を図りました。児童サービスの向上とともに、ボランティア自身の活動意欲を高めることもできたと考えます。また、子育て講座での保護者への読み聞かせ活動の啓発や、学校での地域人材を活用した蔵書のデータベース化作業の実施など、子どもをとりまく大人による積極的な読書活動への参加が行われました。

### (2) 課題

コロナ禍で行動の自粛が求められたことから、これまで継続して実施してきた地域のおはなし会や、学校図書館支援ボランティアへの図書館職員を派遣した講座・支援など、地域と図書館が連携した読書普及事業を十分に行うことができませんでした。継続性が失われたことで、地域の子どもの読書に関する活動が下火にならないよう、図書館が積極的に支援をしていく必要があります。

---

注 14／第3次計画から「多様な支援を必要とする子ども」に表記を変更。

注 15／第3次計画から「子どもと関わる大人」に表記を変更。

## 2. 第2次計画の成果と課題

第2次計画では、計画期間の初年度末から最終年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、事業の中止や延期・縮小、実施方法の再検討などが求められるとともに、度重なる図書館の休館や学校・保育所などの子育て関連施設の休校や休所などにより、十分に実施できなかったアクションプランもありました。しかし、そのような状況下にあっても、教職員や子育て関連施設の職員が子どもたちの読書環境を整備・維持するべく、図書館を有効活用するとともに、図書館でもコロナ禍でできる最大限のサービスを検討・実施したことから、子どもたちが様々な場面で本に触れられる機会を継続して提供することができました。

第2次計画では、読書活動を通じて子どもたちの「学ぶ力を育む」活動に重点を置いています。未就学期には、図書館の貸出文庫や「どこでもドクショ。」事業により、家庭や保育所、幼稚園などの身近な場所で様々な内容の本に触れられる環境を整えることで、子どもたちの世界観を広げ、新たなことに興味・関心を持ってもらうための土壌づくりを行うことができました。また、小学生では、調べ学習での本の活用や「滝川市立図書館を使った調べる学習コンクール」への挑戦などにより、自ら調べ、考えてまとめる力を向上させる手助けを行うことができました。幼児・児童期に育まれたこれらの力は、年齢を重ねるごとに高度化していく学習や情報への理解度を高め、身に着けるために役立つことが期待できます。中学生や高校生は、学ぶ力と合わせて、自ら考えて発信したり、計画・実行していく力が求められます。授業でのおすすめの本のPOP作成やビブリオバトルへの参加、図書館での職場体験で自らテーマを決めて行う企画展示など、本を通して、他者に思いや考えを伝える取り組みを推進しました。このように、各年代に合わせた読書推進の取り組みによって、「学ぶ力を育む」という目標に向けて、一定の成果を得ることができたと考えます。

一方で、2022年度子供の読書活動の推進に関する有識者会議（第4回）の資料によると、2019年度と比較して2021年度の不読率が4%上昇しており<sup>注16</sup>、コロナ禍により図書館や学校図書館へのアクセスが一定期間制限されたことや、授業での体験活動の減少により、事前に本で調べる機会が減少したこと、全国一斉臨時休校で自宅学習の難しい小学校低学年や進学直後の中学1年生、高校1年生などの読書習慣に影響した可能性があることが指摘されています<sup>注17</sup>。滝川市においても、2021年度に実施した「滝川市内に通学する子どもの読書状況調査」において、本を読まない子どもの割合が最も低い中学生で12%、最も高い高校生で27%という結果が出ており、子どもと読書を結び付ける取組を行っていく必要があります。

また、学校でのGIGAスクール構想を踏まえた資料整備などが全国的に求められています。ICTなどの新しい技術の活用については、上記調査にて小学生、中学生、高校生のどの世代も80%以上が電子メディアを使用したことがあり、子どもの読書状況に変化を与えていることがわかっていることから、滝川市の状況に合わせて、検討していく必要があります。

---

注16/2022年度子供の読書活動の推進に関する有識者会議（第4回）濱田秀行氏発表資料。この調査では、ふだん学校以外で本を読む時間がない（読まない）ことを不読としている。

注17/濱田秀行・秋田喜代美（2022年）「小中高校生の読書活動に対する新型コロナウイルス感染症の影響：不読率に着目して」『第66回日本読書学会大会発表要旨集』

## 第3章 計画の基本的な考え方

本計画では、これまでの読書活動推進に向けた取り組みの成果と課題を踏まえ、子どもたちにとってより充実した読書活動ができる環境を整備すべく、方針・方策を定めます。

### 1. 基本方針

滝川市のすべての子どもが読書を通じて様々な知識を身につけるとともに、豊かな想像力を育み、感性を磨き、自ら考え判断する力を身につけられるよう、子どもの読書活動を推進します。また、図書館や幼稚園・保育所、学校などをはじめとした子どもの読書に関わる機関が、地域や企業、団体などと連携し、一体となって子どもの読書環境の整備に努めます。

### 2. 目標

上記の方針に基づき、滝川市の実情を踏まえて、次のとおり目標を定め、積極的な子どもの読書活動推進に取り組みます。

- (1) 読書推進：家庭・地域・学校などを通じた、社会全体での子どもの読書活動の推進
- (2) 環境整備：子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備
- (3) 啓発：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及
- (4) 学ぶ力：読書活動を通じた、子どもたちの「学ぶ力」を育む取り組みの推進
- (5) 資料充実：多様な子どもたちのニーズに対応できる資料の充実
- (6) ICT：ICT（情報通信技術）の活用による読書環境の整備

### 3. 対象

0歳前から高校生までと、その保護者及び子どもと関わる大人を、本計画の対象とします。

## 4. 期間

2024年度から2028年度の5年の期間で取り組みます。なお、社会・経済情勢、子どもをとりまく環境の変化などに対応していくため必要に応じて計画の見直しを行います。

## 5. 成果の検証

「第3次滝川市子どもの読書活動推進計画」の成果は、子ども向け行事の実施回数及び参加人数や学校の図書館活用回数、児童書などの購入比率、児童書貸出冊数及び件数、年齢別の貸出冊数・件数など、客観的な統計データなどを用いて毎年検証を行うこととします。

また、第4次計画へ反映させる基礎データとして、4年目にあたる2027年度に児童生徒への読書状況調査及び子どもの読書に関わる機関などを対象としたアンケート調査を実施します。

## 6. 策定経過

「第3次子どもの読書活動推進計画」は、滝川市社会教育委員会議及び滝川市教育委員会会議により検討及び策定されました。

### 2023年

4月～5月	学校、保育所などの子どもの読書に関わる機関を対象にアンケートを実施
10月26日（木）	第2回滝川市社会教育委員会議において第2次計画の成果検証及び第3次計画の素案について審議
11月25日（土） ～12月10日（日）	第3次計画の素案についてパブリックコメントを実施
12月19日（火）	滝川市教育委員協議会において第3次計画の素案について審議

### 2024年

月 日（ ）	
月 日（ ）	
月 日（ ）	

# 第4章 子どもの読書活動の推進のための方策

子どもの読書に対する興味や能力は、心身の発達段階と密接に関係していると言われていることから、それぞれの年齢や発達段階に合わせた読書活動に取り組みます。

## 1. 0歳前

### 特 性

おなかに赤ちゃんが宿ったときから、子どもへの読書活動は始まっています。これから親となる保護者が、愛情を持って赤ちゃんを迎えるための準備のひとつとして、絵本を通した語りかけがあります。お母さんがおなかの赤ちゃんに読み聞かせをすることで、生まれてきた赤ちゃんがお母さんの声を認識したり、お母さん自身もゆったりとした時間を持ち、心の安定が図られます。

### 方 針

- 子どもの読書の大切さを、これから親となる保護者に伝えます。
- 出産準備や育児に関する本を充実させ、保護者の図書館利用を促します。
- 絵本やくらし・育児に役立つ本の情報を提供します。
- 関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。

### アクションプラン

※「新」…第3次計画における新たな取り組み。

※「目標」…各取り組みの主な目標。（「第3章 2. 目標」参照）

実施主体	取り組み	新	目標
家 庭	おなかの赤ちゃんへの読み聞かせ		読書推進
子どもと大人が集まる施設	妊婦対象講座での啓発		啓発
図書館	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施	新	環境整備

実施主体	取り組み	新	目標
図書館	読み聞かせの啓発	新	啓発
	おすすめ本の紹介		
	図書館利用の案内		
	出産や育児に関する本の充実		資料充実



## 2. 乳幼児

### 特 性

#### 乳 児 期

保護者や周りの大人からの語りかけによって、言葉を獲得していく時期です。読み聞かせを通して、親子のふれあいが生まれ、絆が深まります。また、本に親しむきっかけづくりの土台となる時期です。

#### 幼 児 期

言葉が豊かになり、色々な分野の本に興味を示し始める時期です。物語の世界を想像して楽しむことができるようになります。また、家庭から保育所や幼稚園などへと、一日を過ごす生活の場が変化し、集団での読み聞かせや本を通じた遊びや体験などにより、文字や言葉に興味を示したり、自らの力で本を読むことへとつながっていく時期です。

### 方 針

- おすすめ本の紹介や家読<sup>うちどく</sup>注 18 について啓発を行い、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- ブックスタート事業を継続実施し、赤ちゃんへ発達段階に応じた絵本を贈るとともに、関連施設と連携し、子育て情報を提供します。
- 保育所や幼稚園などが図書館の貸出文庫や「どこでもドクショ。」事業<sup>注 19</sup>を活用することで、子どもたちが様々な本と出会えるような環境を整備します。
- 本やおはなし会などの体験を通して、親子がふれあう機会の充実を図ります。
- 紙芝居や大型絵本、読み聞かせ機材を充実させて、おはなし会の内容を豊かにします。
- 児童書を一層充実させて、本と出会う機会を提供します。
- 本を活用した体験や遊びを通して、本や言葉に親しむ機会を提供します。
- 身近な場所で読み聞かせなどの読書体験ができるよう、図書館による出張おはなし会の活用を促します。

---

注 18/家族で本を読んでコミュニケーションを図り、家族の絆を深めることを目的とした読書活動。

注 19/寄贈本や図書館で除籍になった本を施設にプレゼントする事業。

- 地域と連携し、本や体験を通して親子がふれあう機会を創出します。
- 関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。
- 子ども用の図書館利用案内を作成・配布し、子どもたちの図書館利用を促します。

## アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家庭	家読タイムの実施		読書推進
	絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通じたスキンシップ		
地域	出張おはなし会の活用		読書推進
子どもと大人が集まる施設	出張おはなし会の活用		読書推進
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」の活用		環境整備
	絵本の紹介や読み聞かせ、子育て情報の提供		啓発
幼稚園 保育所 託児所	園児・通所児への読み聞かせ		読書推進
	読み聞かせ機材の活用		
	本などを通じた体験遊びや創作遊びの提供		
	出張おはなし会の活用		環境整備
貸出文庫や「どこでもドクショ。」の活用			
図書館	えほんダイアリーの配布		読書推進
	おはなし会の実施及び参加促進のための周知		
	講演会やワークショップの開催		
	企画展示の実施		
	地域との連携による、本や体験を通して親子がふれあう機会の提供		
	出張おはなし会の実施及び利用促進のための周知		
	「ブックスタート」の実施（4・5か月児相談時）		環境整備
	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施	新	
	幼稚園・保育所・託児所への団体貸出の実施		
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」などによる読書環境の整備		啓発
	「滝川市立図書館活用ガイド～子育て施設編～」の配布	新	
	子ども用図書館利用案内の作成・配布		
	読み聞かせ、家読タイムの啓発		
おすすめの本の紹介			
読み聞かせ機材の充実及び利用期間などの検討		資料充実	
児童書の充実			

## 3. 小学生

### 特性

小学生になると、読書の喜びを知り、自ら本を読みたいと思うようになります。文字を覚え、徐々に主体的に読書習慣を身につけていく時期です。

### 低学年

字が読めるようになったからと、一人読みをさせてしまいがちですが、まだまだ文字を追うのが精一杯な時期でもあります。読み聞かせで本の楽しさを知ること、自ら進んで本に手を伸ばすようになります。

### 中学年

興味が多様化していく時期です。物語だけではなく、科学や自然、知識の本を好む子もいます。子どもたち一人ひとりの興味や関心に応じた本を薦めていくことが大切です。

### 高学年

生活体験が豊かになり、幅広い分野の中から、自分の目的に合った本を適切に選択できるようになる時期です。読書離れの始まる時期でもあるため、子どもたちが主体的に本を手に取りたくるような働きかけが必要です。

### 方針

- おすすり本の紹介や家読についての啓発を行い、子どもに読書を好きになってもらうことで自主的な読書を促すとともに、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- 図書館の貸出文庫や学級文庫を活用し、身近な場所で本にふれることのできる環境を整備します。
- 学校図書館担当業務を担う人員の配置や蔵書のデータベース化へ向けて、図書館が支援に努めます。
- 「学校との連携による子どもの読書活動支援事業連絡会議」において、先生と意見交換を行いながら、それぞれの学校に合わせた学校図書館の運営サポートに取り組みます。

- アニメーション<sup>注20</sup> やブックトーク<sup>注21</sup> など、本を活用した体験や遊びを通じて、本に親しむ機会を提供します。
- 教職員のニーズに対応した学習用図書を図書館が貸出することで、調べ学習の支援強化を図ります。
- 地域との連携による「たきかわ DE 調べる学習体験講座」を通して、実際に体験したことについて本で調べてまとめる力を身に着けるとともに、調べることの楽しさを伝えます。
- 調べ学習や自由研究の成果発表や評価の場として「調べる学習コンクール」を開催し、子どもたちに目標をもってもらうとともに、調べ学習活動のすそ野を広げます。
- 子どもたちからの要望を反映させるなど、児童書を一層充実させ、本と出会う機会の充実を図ります。
- 電子メディアの活用による読書推進の取り組みを実施します。
- 子どもたちへの読書状況についての調査や、関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。
- 子ども用の図書館利用案内を作成・配布し、子どもたちの図書館利用を促します。

## アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家庭	家読タイムの実施		読書推進
	絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通じたスキンシップ		
地域	出張おはなし会の活用		読書推進
子どもと大人が集まる施設	本を活用した工作などの実施や作品の図書館での展示	新	読書推進
	出張おはなし会の活用		環境整備
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」の活用		
学校	読み聞かせの実施		読書推進
	図書委員会の活動の充実		
	学校図書館の活動を支援する人材の活用	新	環境整備
	図書館との連携による学校図書館の整備や、蔵書の充実など、読書環境の整備		
	図書館学級文庫の活用		
	朝読書や休み時間を使った読書時間の確保		

注20／読書をゲームとして楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション力を育てる読書指導法。

注21／一定のテーマを立てて、一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介すること。「本の内容を教える」ことではなく、「本の面白さを伝える」、「その本を読みたいという気持ちを引き出す」ことを目的とする。

実施主体	取り組み	新	目標
学 校	学校図書館の利用に関する子どもたちへの説明	新	啓発
	授業での図書館の活用		学ぶ力
	調べる学習コンクールへの参加		
	蔵書データベース化の検討		ICT
	電子メディアを活用した読書や調べ学習の促進		
図書館	読書習慣の定着に向けた事業の実施	新	読書推進
	「滝川市立図書館活用ガイド～児童センター編～」の配布		
	読書アルバムの配布		
	読み聞かせやブックトーク、アニメーションなどの読書体験の提供		
	講演会やワークショップの開催		
	巡回展の実施		
	おはなし会の実施及び参加促進のための周知		
	図書委員会の活動支援と啓発		
	出張おはなし会の実施及び利用促進のための周知		
	読書状況調査の実施	新	環境整備
	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施		
	学校の要望に合わせた学校図書館の運営サポート		
	図書館学級文庫や貸出文庫などによる読書環境の整備		
	子ども用図書館利用案内の作成・配布	新	啓発
	読み聞かせ、家読タイムの啓発		
	「滝川市立図書館活用ガイド～小・中学校編～」の配布		
	おすすめの本の展示や紹介		学ぶ力
	学校への調べ学習支援事業の実施		
	たきかわっ子ワクワクまなびプログラムの実施		
読み聞かせ機材の充実及び利用期間などの検討		資料充実	
児童書の充実			
電子メディアを活用した読書活動の支援と啓発	新	ICT	

## 4. 中学生

### 特 性

読書の広がりや深まりが進み、自分で未来を切り拓いていく力を身につけていく時期です。その一方、勉強や部活動、趣味などで読書にかけられる時間が少なくなる傾向が出てきます。読書を習慣づける取り組みや、多様な趣味・関心に応じた読書環境の整備が重要となります。

### 方 針

- おすすり本の紹介や家読についての啓発を行い、子どもに読書を好きになってもらうことで自主的な読書を促すととも、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- 子どもたちからの要望を反映させるなど、ヤングアダルト<sup>注 22</sup> 世代の興味・関心を考慮した本の充実とおすすり本の情報発信を行います。
- 図書館の学級文庫を活用し、身近な場所で本にふれることのできる環境を整備します。
- 学校図書館担当業務を担う人員の配置や蔵書のデータベース化へ向けて、図書館が支援に努めます。
- 「学校との連携による子どもの読書活動支援事業連絡会議」において、先生と意見交換を行いながら、それぞれの学校に合わせた学校図書館の運営サポートに取り組みます。
- 教職員のニーズに対応した学習用図書を図書館が貸出することで、調べ学習の支援強化を図ります。
- 図書委員会の活動の充実を図ります。
- 電子メディアの活用による読書推進の取り組みを実施します。
- 子どもたちへの読書状況についての調査や、関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。

---

注 22／発達心理学で「成人期前期」のことを指し、「公共図書館におけるヤングアダルト（青少年）サービス実態報告」（日本図書館協会・1993）では、13 歳から 18 歳（中学生から高校生の学齢）の利用者と規定されている。



# アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家庭	家読タイムの実施		読書推進
学校	図書委員会の活動の充実		読書推進
	図書館との連携による学校図書館の整備や、蔵書の充実など、読書環境の整備		環境整備
	図書館学級文庫の活用		
	朝読書や休み時間を使った読書時間の確保		
	学校図書館の利用に関する子どもたちへの説明	新	啓発
	学校への調べ学習支援事業の実施		学び力
	蔵書データベース化の検討		ICT
	電子メディアを活用した読書や調べ学習の促進		
図書館	読書習慣の定着に向けた事業の実施	新	読書推進
	巡回展の実施		
	図書委員会の活動支援		
	読書状況調査の実施	新	環境整備
	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施		
	学校の要望に合わせた学校図書館の運営サポート		
	図書館学級文庫や貸出文庫などによる読書環境の整備		
	家読タイムの啓発		啓発
	「滝川市立図書館活用ガイド～小・中学校編～」の配布		
	おすすめの本の展示や紹介		
	学習室など、学習の場の提供		学び力
	学校への調べ学習支援事業の実施		
	児童書やヤングアダルトコーナーの充実		資料充実
	電子メディアを活用した読書活動の支援	新	ICT

## 5. 高校生

### 特 性

悩み多き多感な世代で、不読率が増加する時期です。人生の指針となる本との出会いが、将来に向かっての成長を促すきっかけにもつながることから、身近な友人や先生などからの、本を薦める取り組みが大切です。

### 方 針

- おすすり本の紹介や家読についての啓発を行い、子どもに読書を好きになってもらうことで自主的な読書を促すとともに、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- 子どもたちからの要望を反映させるなど、ヤングアダルト世代の興味・関心を考慮した本の充実とおすすり本の情報発信を行います。
- 学校図書館と図書館が連携し、読書環境の整備を行います。
- 学校図書館担当業務を担う人員の配置や蔵書のデータベース化へ向けて、図書館が支援に努めます。
- おすすり本を紹介し合うことで読書意欲を向上させるため、「ビブリオバトル」<sup>注23</sup>を実施します。
- ライトノベルや短編集、学習漫画などの読みやすい本を子どもたちに紹介することで、読書率の向上を図ります。
- 部活動やボランティア活動に、情報発信や成果発表の場を提供し、読書離れが進む世代に図書館の活用を促します。
- 図書委員会や図書局などの活動の充実を図ります。
- 電子メディアの活用による読書推進の取り組みを実施します。
- 子どもたちへの読書状況についての調査や、関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。

---

注 23／発表者が自分のおすすり本を持ち寄って5分間で紹介し、観客がどの本が一番読みたくなったかを投票して、1位の「チャンプ本」を決定する書評イベント。「知的書評合戦」とも呼ばれる。

# アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家庭	家読タイムの実施		読書推進
学校	図書委員会や図書局の活動の充実		読書推進
	図書館との連携による学校図書館の整備や、蔵書の充実など、読書環境の整備		環境整備
	朝読書や休み時間を使った読書時間の確保		
	授業や職場体験などでの図書館の活用		学ぶ力
	クラスや委員会、部活動などでの図書館を使った活動や、情報発信の場としての活用		
	蔵書データベース化の検討 電子メディアを活用した読書や調べ学習の促進		ICT
図書館	ビブリオバトルの実施		読書推進
	図書委員会や図書局の活動支援		
	読書状況調査の実施	新	環境整備
	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施		
	それぞれの学校に合わせた学校図書館の運営サポート		
	貸出文庫などによる読書環境の整備		
	「滝川市立図書館活用ガイド～高校編～」の配布	新	啓発
	家読タイムの啓発		
	おすすめの本の展示や紹介		
	学習室など、学習の場の提供		学ぶ力
	学校への調べ学習支援事業の実施		
ヤングアダルトコーナーの充実		資料充実	
電子メディアを活用した読書活動の支援	新	ICT	

## 6. 多様な支援を必要とする子ども

### 特 性

障がいのある子どもや、様々な理由により学校に通うことができない子ども、外国語を母国語としているなど、日本語能力に応じた資料を求める子どもなど、多様な支援を必要とする子どもの読書は、個々の状況に応じた対応が必要となります。図書整備とともに、本にふれる機会を提供することが大切です。

### 方 針

- おすすり本の紹介や家読についての啓発を行い、子どもに読書を好きになってもらうことで自主的な読書を促すとともに、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- 図書館の貸出文庫や「どこでもドクショ。」事業を活用することで、子どもたちが様々な本と出会えるような環境を整備します。
- 身近な場所で読み聞かせなどの読書体験ができるよう、図書館による出張おはなし会や各種講座などの活用を促し、子どもたちが本と親しむ機会を提供します。
- 点字併記図書や大活字本などの収集を行い、本にふれる機会を提供します。
- 視覚に障がいをもつ子どもが利用しやすい資料や読書補助器具を整備します。
- 電子メディアの活用による読書推進の取り組みを実施します。
- 日本語能力に応じた支援を必要とする子どもが図書館を利用しやすいよう、他言語の利用案内の作成・配布や外国語資料の収集に努めます。

### アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家 庭	家読タイムの実施		読書推進
	絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通じたスキンシップ		
子どもと大人が 集まる施設	出張おはなし会、講習会などの活用		読書推進
	図書館訪問の活用		
	「どこでもドクショ。」の活用		環境整備
	貸出文庫の活用		

実施主体	取り組み	新	目標
学 校	読み聞かせの実施		読書推進
	図書館との連携による学校図書館の整備や、蔵書の充実など、 読書環境の整備		環境整備
	図書館学級文庫の活用		
	朝読書や休み時間を使った読書時間の確保		
図書館	出張おはなし会の実施及び参加促進のための周知		読書推進
	図書館訪問の受け入れ		環境整備
	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施	新	
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」などによる読書環境の整備		
	図書館学級文庫の実施		
	読書補助器具の整備		啓発
	図書館の利用に関するパンフレットの作成・配布	新	
	子ども用図書館利用案内の作成・配布		
	他言語の図書館利用案内の作成・配布		
	読み聞かせ、家読タイムの啓発		学ぶ力
	おすすめの本の展示や紹介		
	学校への調べ学習支援事業の実施		資料充実
	読み聞かせボランティアによる児童用音訳資料の作成	新	
	大活字本や点字併記図書、感触を楽しむ絵本などの収集		
福祉についての理解を深める図書の整備		ICT	
電子メディアを活用した読書活動の支援	新		

## 7. 子どもと関わる大人

### 特 性

子どもは、ただ本が並んでいるだけでは、手を伸ばそうとはしません。大人の声で本を読んであげたり、薦めたり、自ら読む姿を見せることで、子どもたちに「読んでみたい」という気持ちを芽生えさせることができます。身近な大人が、読書の重要性を認識することが、子どもの読書推進には欠かせません。

### 方 針

- おすすめ本の紹介や家読についての啓発を行います。
- 子どもの読書の大切さを伝えるために、情報発信や啓発活動を行います。
- 子どもの読書を支える人材を育成・支援します。
- 身近な場所で読み聞かせなどの読書体験ができるよう、図書館による出張おはなし会の活用を促し、子どもたちが本と親しむ機会を提供します。
- 関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。

### アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家 庭	家読タイムの実施		読書推進
	読書推進活動への参加		
地 域	出張おはなし会の活用		読書推進
	読書推進活動への参加		
子どもと大人が 集まる施設	読書推進活動への参加		読書推進
	「どこでもドクショ。」の活用		環境整備
学 校	國學院大學北海道短期大学部の学生の子どもの読書活動への参加	新	読書推進
	地域人材の活用	新	環境整備
図書館	出張おはなし会の実施		読書推進
	子どもの読書に関わる機関への読書に関するアンケートの実施	新	環境整備
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」などによる読書環境の整備		
	読み聞かせ活動への参加機会の提供		



実施主体	取り組み	新	目標
図書館	出張おはなし会や貸出文庫の利用促進チラシの配布	新	啓発
	読み聞かせ、家読タイムの啓発		
	読み聞かせ機材の充実及び利用期間などの検討		資料充実

